

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901183		
法人名	医療法人社団 旭川圭泉会病院		
事業所名	グループホームやすらぎ(やすらぎユニット)		
所在地	北海道旭川市東旭川町上兵村32-2		
自己評価作成日	平成28年10月7日	評価結果市町村受理日	平成28年12月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172901183-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172901183-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者への対応が理念に基づくようにスタッフ間なんでも話し合える関係作りを心掛けている。また、他者評価による他人からの評価で自らを振り返る機会を作っている。  
 介護安全・感染・身体拘束廃止委員会は毎月または適時開催し、その情報はミーティング等でスタッフ間共有できるように徹底されている。  
 ・毎日午前は体操を中心に、午後はみんなで楽しめるようなレクリエーション、毎月の行事では利用者が昔を思い出せるような懐かしい季節に応じた行事を担当スタッフ協力し合い計画をたてている。  
 ・外部研修にも個々のスタッフが自ら参加を申し出るなど自己研鑽に努めている。  
 ・資格取得のバックアップも万全であり、スキルアップできる環境が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR東旭川駅程近くの広い敷地に農園を有しており、母体医療法人が運営するコンクリートブロック造り平屋建て2ユニット(定員:18名)の開設13年目を迎えるグループホームです。  
 一人ひとりの生活歴や力を活かしながら、デリバリーラーメンや焼肉等のレクリエーションを楽しんだり、紅葉や芝桜見物、旭山動物園や飛行場見物など戸外に出かけるなど楽しみごと、気分転換等の支援をしている。また、やすらぎ祭りや地域交流会の開催で家族と一緒に過ごせる機会を設けるなど家族との絆が途切れないように関係づくりに努めている。  
 地域との交流では、地元中学校の体験学習や医師会看護学校の実習の受け入れ、毎年恒例の夏祭りを開催して町内の人々に参加を頂いたり、演奏会等で地域のボランティアの協力を得るなど認知症の人の理解や支援の方法を、交流を通じて地域の人々に向けて発信している。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の尊厳を大切にすることを理解し介護を提供している。 毎朝職員は理念と基本方針を唱和し、認識を深めている。又、目のつく場所に掲示されており、すぐに参照できる様にしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念や基本方針を毎朝唱和し、その理念を共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りには町内の方がお手伝いに来て下さり、毎年恒例行事となっている。 看護学生の実習や中学生の体験学習等も受け入れ、地域との交流に努めている。	地元中学校の体験学習や医師会看護学校の実習の受け入れ、毎年恒例の夏祭りを開催して町内の人々に参加を得るなど認知症の人の理解や支援の方法を、交流を通じて地域の人々に向けて発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	医師会看護学生実習受け入れや中学生の体験学習など受け入れている。 年4回、やすらぎ新聞を発行、地域への配布も行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、介護高齢課の方や民生委員、ご家族参加のもと開催している。 意見交換の場とし、情報の共有を行いながら、ホームでの出来事や状況を報告し、意見があった場合は速やかに検討し実施している。	定期的に運営推進会議を開催して、事業所の取組み状況や日常生活の様子など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には介護高齢課の方にも参加して頂き、情報交換の場を設けている。 ホーム内での事故等の報告は速やかに行なっている。	市担当者や包括支援センターとは、市主催の研修会参加や日常業務を通じた情報交換や報告、相談等で協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内のグループホームで結成された身体拘束廃止委員会を中心に身体拘束の無いケアを実施している。年に数回高齢者虐待防止法の研修会へ参加し、全スタッフへのフィードバックも行なっている。また、職員対象のアンケートや他者評価を行ない自らが振り返る機会を作っている。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を法人内や外部研修会参加等で身体拘束廃止や高齢者虐待防止法について正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の研修に参加し、内容等を毎月のミーティング時全スタッフに周知し、また、自己評価・他者評価・チェックリストを用いて自らの振り返りを行ない意識を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度についての勉強会を開催し、必要性を認められる方が居る場合迅速に対応出来る様、全スタッフが理解・学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項説明書などをもとに説明し、同意を得ている。 不明な点があれば迅速に対処し、利用者やご家族に不安を与えないよう十分な話し合いを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの玄関に意見箱を設置、苦情や申し立ての連絡先を玄関の見やすい場所に掲示している。満足度アンケートの実施・ご家族との面談等で意見をお聞きするとともに、面会時に希望・意見を随時お聞きしている。	法人独自の利用者・家族アンケートを実施し、そこでの意見を運営に反映できるように改善策を検討している。また、家族や来訪者等が意見や苦情等を言い表せるように苦情受付の意見箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを毎月行ないその中で意見交換や話し合いの場を設けている。 また、年2回・必要時は随時施設長との面談を行うことで、意見や提案を言える機会を設けている。	毎月のミーティングや個人面談等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。また、職員の離職率は低く、安定したケアサービスを実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談等で各スタッフの思いや意見・相談を随時聞ける雰囲気である。 必要な研修や資格取得への補助は万全であり、皆が向上心を持って働けるような環境が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外部の勉強会の参加や個々が希望する資格取得へのバックアップなど協力的である。毎月のミーティング時にはスタッフ主催の勉強会を行い全員が学ぶことができる機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域包括支援センター主催の勉強会や研修会に参加し、同地域の他の事業所スタッフや他職種の方たちと意見交換や情報の交換を行なうように努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族やご本人と出来るだけ多くの面談を行ない、不安の解消に努めている。 得た情報はセンター方式に記入し、ご家族にも記入して頂きそれを活用しながら本人が安心して暮らせる環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より不安な事や要望を聞く機会を多く取り、質問があれば丁寧に説明し理解が得られるよう努めている。 相談や質問には随時話を聞くと共に早期に解決出来る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前に本人やご家族と十分に話し合いホーム内で出来る事、出来ない事を明確に伝え必要があれば他のサービスの説明を行い情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的なケアではなく共に協力し支え合いながら生活できる環境を作り、入居者の能力に合わせてながら出来る事を無理なく行い、共に生活している事を忘れずに尊敬の気持ちを持ちながら生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム内の行事には案内状を送付し、出来る限り一緒に過ごす時間を多く取れる様にしている。外出や外泊の提案、補助等も行ない、全面的に協力をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで培ってきた行き方や暮らし方を大切に、友人や馴染みの方との交流が途絶えないよう、年賀状や電話の支援を行なっている。	買い物や散歩、紅葉や芝桜見物、地域のお祭り参加やボランティアとの交流等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を把握し必要時にはスタッフが介入している。 両ユニットでの合同レクリエーションなどで交流を図りながら円滑な関係が保てる様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も面会に行ったり、院内のお祭り等で会った時には話をしたり、関係を断ち切らないような関りを継続して行なっている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から本人の希望や思いをくみ取るよう努め、安心感を得られるよう状況に応じた支援を行なっている。	センター方式を活用しながら思いや暮らし方の希望や意向の把握に努め、本人本位の検討に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人より生活歴や今までの環境などを聞き、情報は大切にセンター方式や記録等に残しスタッフ間共有し活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの生活リズムを把握し、個々の過ごし方が出来る様支援している。カンファレンスを開催し、身体・精神の変化時は柔軟に対応出来る様努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で本人や家族と関わりあいながら、さりげない言葉の中から意見や思いを見出し反映出来る様に努めている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族の意向や要望、医師・看護師からの指導や助言、カンファレンスやモニタリングを通じて職員の見解やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた記録の充実に努め、スタッフ間情報の共有を心掛けている。毎日の申し送り時には意見交換を行ない、アセスメントやショートカンファレンスで気づきを大切に随時話し合いを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療との連携体制を活かし、柔軟な支援、サービスの多機能化に努めている。リハビリが必要となれば院内のPTやOTに相談し、医師の指示のもとリハビリ通所への支援も行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歯科往診やデリバリーラーメン、訪問理容、ボランティアによるお琴演奏会など、地域との交流を大切にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前から通院していた病院への通院助や、連携している院内の医師ともいつでも連絡が取れる体制であり、必要時相談にのってもらえる環境が整っている。	受診は本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診(内科・歯科等)や日常の健康管理、通院への支援等で適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内には看護師が常勤しており、24時間連絡が取れる体制である。利用者に変化がみられた場合、いつでも報告・相談にのってもらい迅速な対応が出来るような仕組みになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には、施設長やスタッフが面会へ行き状況を聞いていつでも受け入れる事が出来るように体制を整えている。ご家族とも連絡を取りながら不安や相談事があれば解決に向けての支援を病院側と話し合い解消に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	早い段階から家族や本人の意向や気持ちを把握するよう努めている。施設としての指針を十分に説明し同意を得ている。定期的に家族面談を行ない方向性や指針を再確認し、状態の変化に迅速に対応出来る様努めている。	早い段階から本人や家族と話し合い、協力医療機関や医師との連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら、指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルがあり、常にスタッフが見れる位置に保管している。 救命やAEDの使用法の講習などへの参加もしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・消火訓練・総合訓練を定期的に行なっている。スプリンクラー・通報装置の設置、毎日点検も行なっている。	救急救命訓練やAEDの使用法の講習会に参加している。また、年4回の火災避難訓練や消防訓練を実施し、自衛消防隊を組織している。スプリンクラーや火災報知器、通報装置等の設備を完備し、定期点検も実施している。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや言葉の選び方や声の大きさ、話すスピードやイントネーションには十分配慮し、丁寧な対応に努めている。個人情報の取り扱いには十分注意しシュレッダーにかけたり、廃棄処分している。	法人内でコミュニケーション、接遇に関する研修会を実施して、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる言葉かけや対応がないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関りや生活の中で利用者ひとりひとりの思いや希望を汲み取れる様な声掛けを行なっている。利用者が自己決定出来る様にわかり易い説明を行ない、言語外のコミュニケーションも取り入れながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	その日の気分や状態を把握し本人の想いを傾聴している。出来る限り希望に沿えるように努め、出来ない時には理由を伝え理解を得るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容室の訪問で本人の好きな髪型やカラー・パーマをかけたりしている。いつも清潔でいられるよう支援し、希望のものがある時には一緒に買い物に行ったりスタッフが代わりに買いに行ったりとおしゃれが出来る様に心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の力を活かしながら、食器の片付けや茶碗洗い、盛り付けやおやつ調理などを一緒にしない食の楽しみを味わってもらような支援をしている。デリバリーラーメンやお祭りでは好きな味や好きなお弁当を選択してもらっている。	デリバリーラーメン(出張出前)や焼肉レクなど食事が楽しみなものになるよう支援している。また、一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に味見や食器洗い、後片付け等している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや量等、個々の状態や希望に応じて提供している。また、医師や看護師に相談して補助食品等も取り入れながら必要な栄養が摂れる様心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後・起床時・就寝前や必要時、口腔ケアを行ない、口腔内の清潔保持や義歯の破損や口腔内の異常にも早期に発見できる様努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間シートを活用し排泄パターンを把握しており、個々に合った排泄援助をしている。随時アセスメントや定期的なカンファレンスで話し合いを行ない支援方法の工夫に努めている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握して、声掛けや誘導等でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、牛乳・ヤクルト・氷水を提供したり、毎食時ファイバーを摂取して頂いたり、出来る限り薬に頼らないよう心掛けている。天気の良い日にはホーム周辺の散歩等で運動を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個々のタイミングに合わせた入浴をしている。拒否された場合は無理に促さずに日にちを変更するなど柔軟な対応をしている。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように柔軟な支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を出来る限り多く取り夜間安眠に繋がれるよう努めている。就寝・起床時間は設定せずに無理なく過ぎて頂けるような声掛け・支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイリング・温度版にも服薬している薬の情報が記載されており、いつでも確認とれるようにしている。服薬チェック表の活用。処方変更時は種類・目的・副作用についても皆が分かるようにされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせたものを見つけ、無理なく行なえる手伝いや役割を持ち1人1人が活躍できる機会を作るようにしている。 近所の銭湯へ行ったり、気分転換が図れる様な支援も行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じ散歩や買い物に出掛けている。 夏祭りや紅葉見学、ドライブや外のテラスでの焼き肉パーティなど、戸外に出る楽しみを味わって頂いている。	一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や買い物、外気浴など戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、紅葉や芝桜見物、旭山動物園や飛行場見物など楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は現在いない為、自己管理は行なっていないが、外出先での支払い時には自分で支払いをしたという喜びを味わってもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話手紙等の通信については希望時にはいつでも対応し、代わりに投函したりする支援も行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節ごとのポスターの掲示や植物の設置やテラスでのプランター野菜の栽培等、生活感や季節感を味わう事が出来る様な工夫をしている。	共用空間は、清潔感が漂い、絵手紙の掲示や季節毎の飾りつけ等で生活感や季節感を採り入れ、居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファとテレビが配置され、個々の好きな場所で自由に寛げるようになっている。 夏場はテラスに出て外気浴などを行なっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのタンスやソファ、テレビや絨毯や雑誌などを置いたり、居心地の良いお部屋作りを一緒に行なっている。 壁の掲示物も本人の好きな物を掲示している。	居室には、使い慣れた家具や寝具が持ち込まれたり、家族の写真等が飾られ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来る事・出来ない事シート」を活用して残存機能の把握をしている。 個々の能力に合わせ負担の無い程度に出来る事をして頂いている。 センター方式の活用。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901183		
法人名	医療法人社団 旭川圭泉会病院		
事業所名	グループホームやすらぎ(これびユニット)		
所在地	北海道旭川市東旭川町上兵村32-2		
自己評価作成日	平成28年10月7日	評価結果市町村受理日	平成28年12月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172901183-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172901183-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成28年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者への対応が理念に基づくようにスタッフ間なんでも話し合える関係作りを心掛けている。また、他者評価による他人からの評価で自らを振り返る機会を作っている。
- ・介護安全・感染・身体拘束廃止委員会は毎月または適時開催し、その情報はミーティング等でスタッフ間共有できるよう徹底されている。
- ・毎日午前は体操を中心に、午後はみんなで楽しめるようなレクリエーション、毎月の行事では利用者が昔を思い出せるような懐かしい季節に応じた行事を担当スタッフ協力し合い計画をたてている。
- ・外部研修にも個々のスタッフが自ら参加を申し出るなど自己研鑽に努めている。
- ・資格取得のバックアップも万全であり、スキルアップできる環境が整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念をスタッフ唱和を行なっている。ネームや休憩室に理念を掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	やすらぎ新聞の作成、学生の実習や体験学習を受け入れている。運営推進会議ややすらぎ祭りを行ない地域と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	やすらぎ新聞を年4回発行し家族や地域の方に配布している。中学生や医師会からの学生の受け入れを行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行ない家族の方や地域の方、民生委員や介護高齢課の方にも参加して頂き、意見交換をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価の結果を市町村に送付し公開している。地域包括や市町村が開催している、研修に参加し研修内容を勉強会で報告している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を月に1度開催している。開催内容はユニットミーティングで報告している。年に数回他者評価やアンケートを行ない、ケアに活かしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修の参加や介護安全委員会を開催しミーティングで内容を周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について勉強会を開き、ミーティングで勉強している。成年後見人については、地域包括やケースワーカーと連携し制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に本人や家族に書面を用いて説明を行い、質問に応じ話し合いをもうけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を各ユニットに設置して誰でも投書できるようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行ない、意見交換を行なっている。年に2回管理者と個人面談を行なっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望を取り入れた勤務表の作成。個人面談を行ない各スタッフの意見や思いなどは管理者が把握している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習会の紹介。各々が必要な研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修会や講習会等での意見交換や情報の共有をしている。系列のグループホームと定期的に会議を行ない、情報交換をしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にオリエンテーションを行ない、不明な点や不安な事があれば説明を行なっている。センター方式を使い要望など明確にしてスタッフが情報を共有し易くしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	オリエンテーション内やそれ以外でも困っている事、不安な事があればその都度対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに合っているか本人や家族と話し合っている。施設の特徴などの説明を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的ではなく、共に協力し支え合いながら、生活できる環境作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報交換をこまめに行ない、外出の相談や支援を行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話のやり取りを通して馴染みの方の関係が切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出を通して利用者同士の交流の場を作っている。スタッフはトラブルにならない様情報交換を行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性を断ち切らないように努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者アンケートを実施して希望や要望の満足度を把握に努めている。日々の会話の中から本人の要望をくみ取り、出来る限り叶えられるように支援を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取りいれたり、本人や家族に話を聞き情報を提供して頂き、以前の生活に近い支援を行えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズムを把握し、興味のある事や趣味、出来る事出来ない事を把握し無理の無い程度で行なっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員の管理の元入居者の方の現状に沿った課題の見出し、ケアカンファレンスにて情報交換を行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を出来るだけ行ない、変更などがあればその都度、申し送りやユニットミーティングで情報の共有を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療との連携を図り、柔軟な対応や多機能化している支援・サービスを提供出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の体験学習の受け入れや訪問歯科、音楽ボランティアなど楽しめる機会を増やしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医や病院の受診を行ない適切な医療を受けられるようになっている。受診する時は、送迎も行なっている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務している。24時間連絡が取れる体制が整っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来る限り面会に行き、入院先の看護師から情報の提供をしてもらっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期については、家族やスタッフ間での意見交換や家族の意向など事前に確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを活用し全スタッフが周知出来る様に勉強会をしている。外部での勉強会で救急時のがあれば積極的に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者の方も交えて避難訓練を年に数回行なっている。毎日の自主点検確認も行なっている。		

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格に合わせた声掛け・介助を行なっている。介助時は、プライバシーの配慮に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話から思いをくみ取る出来ることを見極めながら意思の尊重を行えるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員の都合ではなく、1人1人に合わせた対応をしている。外気浴や外出レクを行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の美容室を利用したり、新しい衣類を購入したりしている。衣類の選択時は、本人と好みの服を選択して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合った食事形態で提供している。好みに合わせて、ふりかけなど副食の購入をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食器の使用や量等も工夫して対応している。食事の量が少ない方は、医師より処方されたエンシュアリキッドの飲用をして頂いている。水分量は、24時間シートを用いて把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行ない、必要に応じて介助をしている。口腔内の清潔を心掛けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間シートを活用し排泄のリズムの把握に努めている。リズムに合わせてトイレ誘導を行ない、失禁の減少に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヤクルトを提供したり、体操を行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	本人の希望を聞き入れ、拒否などある時は時間を空けたり、スタッフを代えて声掛けなど工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を外出レク等を通して増やしたり、日光に当たることで安眠を促している。寝れない時は、温かい物を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はいつでも見れるようにまとめてある。処方箋の変更時は注意して確認し記録に残し情報を共有している。頓服使用時は、その都度看護師に確認し使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力に合わせた当番を無理強いせずに行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って外出をしたり、行事以外でもドライブに出かけたりしている。出来る限り外へ出れる機会作りをしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じたお小遣いの管理をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、電話はいつでも出来る状態になっている。必要時は、スタッフが代筆を行い、手紙や年賀状を出している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフと作成した飾り付けを飾ったりしている。テレビなどは音の大きさに注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者さん同士がコミュニケーションが出来る場所、廊下、テラスにベンチを設置し、1人になれる空間を用意している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1人1人の好みの物、馴染んだ物などを自由に持ち込みができ、居心地の良い暮らしの支援を行なっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具やベッドの高さを1人1人に合わせ調整している。施設内はバリアフリーで手すりの設置もされている。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム やすらぎ

作成日: 平成 28年 11月 21日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	37	・利用者の希望の表出や自己決定がすべての場面においてできていると言えない。	・利用者の要望に出来る限り応える。 ・周囲に合わせるだけでなく自らの希望も話せる雰囲気を作る。	・利用者さん満足度アンケートを参考にし、行きたい場所ややりたい事を個々に聞き、実行する。	12ヶ月
2	38	・ひとりひとりのペースに合わせた外出や、レクリエーションが少ない	・個別の外出が出来る ・個々の能力に合わせたレクの選択ができる。 ・負担にならずに楽しむ事ができる。	・本人の希望を聞き、外出する。 ・レクリエーションの種類を増やす。 ・表情や発言等、記録に残し利用者の反応を評価する。	12ヶ月
3	13 14	・他職種や他施設職員との交流が少ない。	・他施設、他職種職員と交流の場を増やし、意見や情報交換をする。それを事業所でフィードバックし、より良いサービスの提供に繋げる。 ・全員が1つ以上の研修に参加し、自己研鑽やスキルアップが出来る	・研修案内、情報を積極的に発信する ・研修に参加した時は、周囲の方と積極的に交流を図る。 ・知り得た情報は現場で共有し、今以上のサービス提供が出来るように検討する。	12ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。